

自由民主党会派と県民をつなぐ

リンク
Link

No.8

2006.11

県議会の日程

- | | |
|--------|--------------|
| 11月14日 | 本会議 決算特別委員会 |
| 15日 | 分科会 |
| 17日 | 会派議員総会 |
| 20日 | 総括質疑 |
| 21日 | 本会議(決算認定) |
| 12月5日 | 本会議 12月定例会開会 |
| 11日 | 一般質問 |
| 12日 | 〃 |
| 13日 | 常任委員会 |
| 14日 | 〃 |
| 15日 | 会派議員総会 |
| 18日 | 総括質疑 |
| 19日 | 常任委員会(採決) |
| 20日 | 本会議 定例会 閉会 |

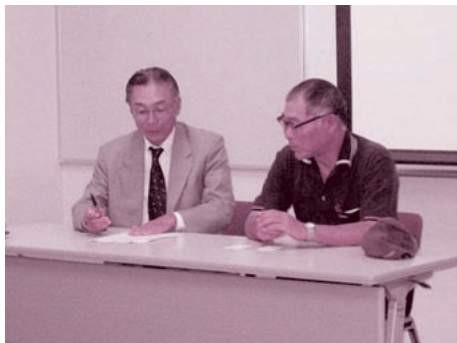
深まる秋

釣瓶落峠(藤里町)

★
★
★
あなたの声を私たちに
県議会自由民主党会派

医師確保への先進的な取り組み事例

10月4日、青森県深浦町の国民健康保健相談診療所・地域包括ケアセンターを訪れ、所長の柳善佑医師及び事務長の大船昭宏氏に話しを伺った。



右・柳所長 左・大船事務長

深浦町は旧深浦町と旧岩崎村とが平成17年3月31日に合併し発足、人口は11,183人、高齢化率は33.7%と青森県内で2番目に高い。規政規模は74億円(18年度当初)と同程度の人口の秋田県内の町村に比べて大きい。それは町内の6漁協の水揚げが32億円という漁業のウェートが高いといったことも背景にあるものと思う。

同診療所の実績は、17年度診療者数が15,947人で、1日平均65

人である。在宅ケアを重視し24時間体制をとっている。

秋田県において郡部にむける医師不足は深刻である。その背景として臨床研修体制が変わり全国の医療機関の中から選択できるようになったことから若い医師の大学離れが顕著になった。また、医療の専門分化がより進展し、大きな病院志向の傾向が強まっている。こうしたことで過疎地等の勤務医師の確保が困難になってきている。

医師確保には

1. 優れた医育環境を整える
2. 意欲が湧く環境を整える
3. 仕組みを整える。

(県、市町村、大学がそれぞれ連携と支援のネットワークを構築する)

と言われ、本県においても医師修学資金貸与や医学部入学生地元枠の設定などに力をいれている。

しかしながら、今回柳所長さんや大船事務長さんに話を聞いて先きの

条件を整える努力は当然のことながら必要だが、医師確保は最終的には地域医療に情勢をもたらす医師をどうやって探し出すかに尽きると言っても過言ではない。柳医師は大阪市立大学の出身だが、同大学から柳さんのもとで研修したいという、若い医師が引きも切らないという現実は何よりもそのことを良く物語っている。氏の話によると全国には地域医療に取組みたいという情熱を持った医師が少なからず存在する。情報を広く発信し、そうした医師を探し当て、その人のネットワークを活用してさらなる確保につなげていくことの重要性を強く認識させられた今回の研修であった。



試行錯誤の連続で発行を続けてきたLinkも今回で8号となりました。県民の皆さんに私たち会派の動きや考え方を知ってもらいたいと考え取り組んできました。紙面の制約の中で何を選択すべきかなど毎回悩みます。

担当して嬉しいことは、時折意見や激励の言葉を寄せてくれる読者がいることです。その都度内容の不十分さを認識させられることにもなりますが、読んでくれている人がいるという実感ほど強く感じられるものはありません。

皆さんの声が何にも増して、私たちの力になるのです。

広報委員長 武田英文

議会会派構成

自由民主党	18名
みらい21	10名
新生会	5名
社会民主党	4名
民主党・無所属クラブ	3名
いぶぎ	2名
公明党	1名
共産党	1名
緑風21	1名

ご質問、ご意見をお寄せください。

Linkリンク: 連結、つなぐの意

発行/秋田県議会自由民主党会派

〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号 県議会内

Tel.018-860-2040 Fax.018-860-2102



この印刷物はEcoMark認定を受けた再生紙を使用しています。



この印刷物は植物性大豆油インキで印刷しています。

平成18年度9月補正予算の概要

補正額は58億円、補正後の予算規模は6,698億円となり、前年度補正後との対比では、0.2%の増となっている。

この中でもっとも論議を呼んだのが、こども総合支援エリア整備事業関連であった。今回の補正額58億円のうち、この関連が約30億円と半分以上を占めている。これについては論点が大きく二つあったように思う。その一つは、知的、身体的障害を持つ子供たちを1ヶ所にまとめるという点にあった。障害児の重度・重複化等に対応し、きめ細かい療育体制を構築するという点については異論はないものの、ノーマライゼーションの観点からすれば盲学校や聾学校及び養護学校などについては、これまで通り地域社会と触れあい易い形態が望ましいのではないかというもの

であった。二点目は、設置される場所が南ヶ丘でいいのかということであった。市街地から離れて通学等に不便であることから、旧農業試験場跡地などが適しているのではないか、南ヶ丘は冬期積雪も多く風が強いなど決して好適地とは言えないこと、さらには住宅供給公社の分譲地の売れ残りを活用することから公社の救済が目的なのではないかといった疑念を払拭しきれなかったことであった。

会派内に調査チームを発足させ、県外調査を実施するなど精力的に取り組む、時間をかけて議論した。最終的には新しい形での総合支援センターとしての今後の役割に期待し、大勢として賛成に回るようになったものである。

同事業は総工事費が120億円にもものぼる大プロジェクトである。

県連だより



自民党総裁選は、本県においても安倍氏が圧勝した。県連での開票結果は次のとおりであった。

有効投票 7,482票

- 安倍 晋三 4,946票 (66.1%)
- 麻生 太郎 1,821票 (24.3%)
- 谷垣 禎一 715票 (9.6%)

これにより、本県の持ち票であった5票は安倍氏に4票、麻生氏に1票が配分された。

本県の有権者(16、17年度党費を払った党員及び党友)は12,464人、投票総数は7,523票で投票率は60.4%、前回の総裁選を6.8%下回った。無効票のなかには安倍晋太郎というのが数票あった。

戦後生まれの初の総裁になった安倍氏は52才、安倍政権にとって初の試金石と言われた神奈川16区、大阪9区の衆院補欠選挙とも自民党が制し、順調な滑り出しとなっている。

会派議員



北秋田郡
北林 照助

●会計監督



大曲市
議員副会長 辻 久男

●党紀委員



秋田市
議員会長 北林 康司

●財務副委員長



仙北郡
安杖 正義

●幹事長



北秋田郡
津谷 永光

●会長



大館市
鈴木 洋一

●党紀委員長



秋田市
中泉 松之助

●議長



由利郡
佐藤 健一郎

●会計監督



仙北郡
大野 忠右工門

●党紀委員



秋田市
富樫 博之

●監査委員
●総務副会長



横手市
鶴田 有司

●議会運営委員長
●副幹事長



山本郡
金谷 信栄

●建設委員長
●財務委員長



山本郡
武田 英文

●総務企画委員長
●広報委員長



本荘市
小田 美恵子

●農林水産委員長
●総務会長・組織委員長



雄勝郡
大関 衛

●教育公安副委員長
●政務調査会長



にかほ市
渋谷 正敏

●福祉環境委員長
●政務調査副会長



平鹿郡
柴田 正敏

●組織副委員長



南秋田郡
平山 晴彦

●広報副委員長



写真

選挙区
氏名

●議会の役職
●県連の役職